

4-4 テレビによるスポーツ観戦種目

表4-5に、過去1年間にテレビ観戦した上位15種目を示した。1位は「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」64.0%であり、2位の「プロ野球(NPB)」51.8%とは10ポイント以上の差がある。2018 FIFAワールドカップにおける日本代表試合のテレビ観戦による影響と推察される。3位以降には「フィギュアスケート」48.2%、「高校野球」44.8%、「マラソン・駅伝」40.8%が入った。性別にみると、男性は「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が67.3%と最も高く、「プロ野球(NPB)」63.2%、「高校野球」51.4%と続く。女性は「フィギュア

スケート」が63.2%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が60.7%、「プロ野球(NPB)」が40.6%であった。テレビ観戦率上位15種目のうち、女性よりも男性のテレビ観戦率が高い種目が多く、特に「格闘技(ボクシング、総合格闘技など)」(男性28.6%、女性8.3%)と「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」(男性29.3%、女性11.0%)は男性が女性を約20ポイント近く上回る。一方で「フィギュアスケート」は男性33.0%に対して女性63.2%と、女性が30ポイント以上高い。また、「バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)」(男性15.7%、女性18.8%)も、男性よりも女性のテレビ観戦率が高かった。

【表4-5】テレビによる種目別スポーツ観戦率(全体・性別:複数回答)

全体 (n=3,000)			男性 (n=1,491)			女性 (n=1,509)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	64.0	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	67.3	1	フィギュアスケート	63.2
2	プロ野球(NPB)	51.8	2	プロ野球(NPB)	63.2	2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	60.7
3	フィギュアスケート	48.2	3	高校野球	51.4	3	プロ野球(NPB)	40.6
4	高校野球	44.8	4	マラソン・駅伝	41.8	4	マラソン・駅伝	39.8
5	マラソン・駅伝	40.8	5	大相撲	39.9	5	高校野球	38.2
6	大相撲	35.7	6	フィギュアスケート	33.0	6	大相撲	31.5
7	プロテニス	29.8	7	プロテニス	31.3	7	プロテニス	28.4
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	20.1	8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	29.3	8	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	18.8
9	Jリーグ(J1、J2、J3)	19.9	9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	28.6	9	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	15.6
10	プロゴルフ	19.7	10	プロゴルフ	27.9	10	Jリーグ(J1、J2、J3)	12.9
11	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	18.4	11	Jリーグ(J1、J2、J3)	26.9	11	プロゴルフ	11.5
12	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	17.3	12	海外プロサッカー(欧州、南米など)	19.9	12	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	11.0
13	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	14.5	13	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	18.6	13	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	8.9
14	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	13.8	14	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	15.7	14	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	8.3
15	海外プロサッカー(欧州、南米など)	13.7	15	ラグビー	15.7	15	海外プロサッカー(欧州、南米など)	7.6
	テレビで観戦した種目はない	10.1		テレビで観戦した種目はない	8.5		テレビで観戦した種目はない	11.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

表4-6には、年代別のテレビ観戦種目を示した。70歳以上を除くすべての年代で「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が1位であった。70歳以上では「プロ野球(NPB)」が63.1%と最も高い。2位には、18・19歳から40歳代までは「プロ野球(NPB)」50.3%、50歳代と60歳代では「フィギュアスケート」、70歳以上では「大相撲」が入った。

表4-7は、今後、テレビによるスポーツ観戦を希望する割合が高かった上位10種目を示している。「サッカー

日本代表試合(五輪代表含む)」が52.5%と最も高く、「プロ野球(NPB)」44.8%、「フィギュアスケート」41.6%、「高校野球」39.3%、「マラソン・駅伝」34.8%と続く。テレビ観戦希望率の上位10種目は、過去1年間にテレビ観戦した上位10種目と、種目、順位とも一致している。

さらに、テレビ観戦希望率を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて算出すると、いずれの種目も新規観戦希望率より継続観戦希望(リピーター)率が高い特徴がある。

【表4-6】テレビによる種目別スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=71)			20歳代 (n=381)			30歳代 (n=480)			40歳代 (n=595)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	63.4	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	58.3	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	65.4	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	68.7
2	プロ野球(NPB)	45.1	2	プロ野球(NPB)	44.4	2	プロ野球(NPB)	41.5	2	プロ野球(NPB)	50.3
3	高校野球	42.3	3	フィギュアスケート	32.8	3	フィギュアスケート	37.7	3	フィギュアスケート	48.7
4	フィギュアスケート	31.0	4	高校野球	31.5	4	高校野球	33.8	4	高校野球	45.7
5	プロテニス	25.4	5	マラソン・駅伝	23.6	5	マラソン・駅伝	24.2	5	マラソン・駅伝	35.6

50歳代 (n=481)			60歳代 (n=564)			70歳以上 (n=428)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	65.5	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	67.4	1	プロ野球(NPB)	63.1
2	フィギュアスケート	55.5	2	フィギュアスケート	58.2	2	大相撲	61.7
3	プロ野球(NPB)	54.1	3	プロ野球(NPB)	57.8	3	マラソン・駅伝	56.3
4	マラソン・駅伝	48.2	4	マラソン・駅伝	56.7	4	高校野球	55.1
5	高校野球	48.0	5	大相撲	52.7	5	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	54.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-7】テレビによる種目別スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	推計観戦希望人口(万人)				
			継続観戦希望(リピーター)率 (%)	新規観戦希望率 (%)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)	
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	52.5	51.4	1.1	5,566	5,449	117
2	プロ野球(NPB)	44.8	43.7	1.1	4,749	4,633	117
3	フィギュアスケート	41.6	40.1	1.5	4,410	4,251	159
4	高校野球	39.3	38.0	1.3	4,166	4,028	138
5	マラソン・駅伝	34.8	33.6	1.1	3,689	3,562	117
6	大相撲	28.5	28.0	0.6	3,021	2,968	64
7	プロテニス	25.4	24.2	1.2	2,693	2,565	127
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	19.8	17.5	2.3	2,099	1,855	244
9	Jリーグ(J1、J2、J3)	18.6	16.7	2.0	1,972	1,770	212
10	プロゴルフ	16.8	16.2	0.6	1,781	1,717	64

注) 推計観戦希望人口: 18歳以上人口の106,011,547人(2017年1月1日時点の住民基本台帳人口)に観戦希望率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

4-4 テレビによるスポーツ観戦種目

表4-5に、過去1年間にテレビ観戦した上位15種目を示した。1位は「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」64.0%であり、2位の「プロ野球(NPB)」51.8%とは10ポイント以上の差がある。2018 FIFAワールドカップにおける日本代表試合のテレビ観戦による影響と推察される。3位以降には「フィギュアスケート」48.2%、「高校野球」44.8%、「マラソン・駅伝」40.8%が入った。性別にみると、男性は「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が67.3%と最も高く、「プロ野球(NPB)」63.2%、「高校野球」51.4%と続く。女性は「フィギュア

スケート」が63.2%と最も高く、次いで「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が60.7%、「プロ野球(NPB)」が40.6%であった。テレビ観戦率上位15種目のうち、女性よりも男性のテレビ観戦率が高い種目が多く、特に「格闘技(ボクシング、総合格闘技など)」(男性28.6%、女性8.3%)と「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」(男性29.3%、女性11.0%)は男性が女性を約20ポイント近く上回る。一方で「フィギュアスケート」は男性33.0%に対して女性63.2%と、女性が30ポイント以上高い。また、「バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)」(男性15.7%、女性18.8%)も、男性よりも女性のテレビ観戦率が高かった。

【表4-5】テレビによる種目別スポーツ観戦率(全体・性別:複数回答)

全体 (n=3,000)			男性 (n=1,491)			女性 (n=1,509)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	64.0	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	67.3	1	フィギュアスケート	63.2
2	プロ野球(NPB)	51.8	2	プロ野球(NPB)	63.2	2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	60.7
3	フィギュアスケート	48.2	3	高校野球	51.4	3	プロ野球(NPB)	40.6
4	高校野球	44.8	4	マラソン・駅伝	41.8	4	マラソン・駅伝	39.8
5	マラソン・駅伝	40.8	5	大相撲	39.9	5	高校野球	38.2
6	大相撲	35.7	6	フィギュアスケート	33.0	6	大相撲	31.5
7	プロテニス	29.8	7	プロテニス	31.3	7	プロテニス	28.4
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	20.1	8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	29.3	8	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	18.8
9	Jリーグ(J1、J2、J3)	19.9	9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	28.6	9	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	15.6
10	プロゴルフ	19.7	10	プロゴルフ	27.9	10	Jリーグ(J1、J2、J3)	12.9
11	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	18.4	11	Jリーグ(J1、J2、J3)	26.9	11	プロゴルフ	11.5
12	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	17.3	12	海外プロサッカー(欧州、南米など)	19.9	12	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	11.0
13	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	14.5	13	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	18.6	13	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	8.9
14	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	13.8	14	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	15.7	14	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	8.3
15	海外プロサッカー(欧州、南米など)	13.7	15	ラグビー	15.7	15	海外プロサッカー(欧州、南米など)	7.6
	テレビで観戦した種目はない	10.1		テレビで観戦した種目はない	8.5		テレビで観戦した種目はない	11.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

表4-6には、年代別のテレビ観戦種目を示した。70歳以上を除くすべての年代で「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」が1位であった。70歳以上では「プロ野球(NPB)」が63.1%と最も高い。2位には、18・19歳から40歳代までは「プロ野球(NPB)」50.3%、50歳代と60歳代では「フィギュアスケート」、70歳以上では「大相撲」が入った。

表4-7は、今後、テレビによるスポーツ観戦を希望する割合が高かった上位10種目を示している。「サッカー

日本代表試合(五輪代表含む)」が52.5%と最も高く、「プロ野球(NPB)」44.8%、「フィギュアスケート」41.6%、「高校野球」39.3%、「マラソン・駅伝」34.8%と続く。テレビ観戦希望率の上位10種目は、過去1年間にテレビ観戦した上位10種目と、種目、順位とも一致している。

さらに、テレビ観戦希望率を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に分けて算出すると、いずれの種目も新規観戦希望率より継続観戦希望(リピーター)率が高い特徴がある。

【表4-6】テレビによる種目別スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=71)			20歳代 (n=381)			30歳代 (n=480)			40歳代 (n=595)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	63.4	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	58.3	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	65.4	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	68.7
2	プロ野球(NPB)	45.1	2	プロ野球(NPB)	44.4	2	プロ野球(NPB)	41.5	2	プロ野球(NPB)	50.3
3	高校野球	42.3	3	フィギュアスケート	32.8	3	フィギュアスケート	37.7	3	フィギュアスケート	48.7
4	フィギュアスケート	31.0	4	高校野球	31.5	4	高校野球	33.8	4	高校野球	45.7
5	プロテニス	25.4	5	マラソン・駅伝	23.6	5	マラソン・駅伝	24.2	5	マラソン・駅伝	35.6

50歳代 (n=481)			60歳代 (n=564)			70歳以上 (n=428)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	65.5	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	67.4	1	プロ野球(NPB)	63.1
2	フィギュアスケート	55.5	2	フィギュアスケート	58.2	2	大相撲	61.7
3	プロ野球(NPB)	54.1	3	プロ野球(NPB)	57.8	3	マラソン・駅伝	56.3
4	マラソン・駅伝	48.2	4	マラソン・駅伝	56.7	4	高校野球	55.1
5	高校野球	48.0	5	大相撲	52.7	5	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	54.7

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018

【表4-7】テレビによる種目別スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	継続観戦希望(リピーター)率 (%)	新規観戦希望率 (%)	推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
					5,568	5,451	117
1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	52.5	51.4	1.1	5,568	5,451	117
2	プロ野球(NPB)	44.8	43.7	1.1	4,751	4,635	117
3	フィギュアスケート	41.6	40.1	1.5	4,412	4,253	159
4	高校野球	39.3	38.0	1.3	4,168	4,030	138
5	マラソン・駅伝	34.8	33.6	1.1	3,691	3,564	117
6	大相撲	28.5	28.0	0.6	3,023	2,970	64
7	プロテニス	25.4	24.2	1.2	2,694	2,567	127
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	19.8	17.5	2.3	2,100	1,856	244
9	Jリーグ(J1、J2、J3)	18.6	16.7	2.0	1,973	1,771	212
10	プロゴルフ	16.8	16.2	0.6	1,782	1,718	64

注) 推計観戦希望人口: 18歳以上人口(20歳以上は2017年1月1日時点の住民基本台帳人口、18・19歳は同時期の住民基本台帳人口のうち、15~19歳の人口に2015年の国勢調査から得られた18歳および19歳の人口割合を乗じて得られた推計値を利用した)の106,056,838人に、観戦希望率を乗じて算出。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2018